

錦織監督

映画の現場から



●●● 30

映画と観光 古里をフィルムに焼き付ける理由③

江戸総鎮守の神田明神(神社)は、730年に出雲系の一族が大己貴命、いわゆる大国主命を祭ったのが始まりであることが社伝で伝えられていることを前回書いた。

東京銀座を埋め立てたのが出雲人で、江戸時代、出雲町と呼ばれていたこと、関東一円には素戔嗚尊を主祭神として祭る氷川神社が二百数十社以上あり、簸川郡のヒカワが由来であることなど、関東と出雲のつながりを今に伝える事例は枚挙にいとまがない。

10年前に私はそれらの事例を東京の人に教えてもらった。「島根の出身なのに知らないの?」と言われ、恥ずかしい気分になったことを覚えている。素人ながら、それからできるだけいろいろな書物に目を通し



出雲地方を流れる斐伊川

地名に感じる古代ロマン

たり、お参りがてら神社の社伝の書かれています。看板の前にたたずむようになった。

長野の諏訪大社は武甕槌命が、出雲を支配していた大国主命に出雲王朝の支配権を譲るよう迫った際に、大国主命の子である建御名方命は国譲りに反対し、武甕槌命と相撲をとったが負けてしまったため、諏訪まで逃れ建御名方命が王国を築いたのが始まりだと古事記は伝えている。

ニュースでみる勇壮な御柱祭りが出雲と密接な関係があるということを意識してみると見え方も違ってくる。長野のみならず北関東や北陸、東北、四国、九州に至るまで、大国主命や素戔嗚尊の祭られている神社がいかに多いかということに気づく。富山の榑田神社や博多の榑田神社などもしかり。長野にある伊豆毛神社から関東地方を南下していった出雲族が現在の伊豆半島にたどり着く途中「毛」が抜けてしまい「伊豆」になったのではないか、という説を私は唱えたい(笑)。

あくまでも素人の戯れ言であるが、三島大社の先に三種の神器が祭られている熱田神宮があるので、この珍説もまんざらではないと思えてくるから楽しい。伊豆七島の神津島の神社は出雲の神様だと民宿の女将が教えてくれた。

今ある地名や神社から古代への想像をかき立てられロマンが広がっていく。大国主命への信仰は、出雲族の隆盛の軌跡だと思いが、現在もその息吹が全国に広がっていることをうれしく思う。

古事記1300年の節目の年に全国の「出雲」を知り、あらためて先人に思いをさせた。ご縁をお互い知ることが、そこに行ってみたいと思うには一番だと思う。そんな懸け橋のような「知られざる出雲」を題材にした映画を撮りたいと思っている。

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載